

那須の歴史
再発見!

那須町と 近現代の人々

vol.40

(最終回)



藤懸静也 (1881-1958)

最終号は、茨城県古河市の出身で、伊王野の郷土史編纂に携わった、浮世絵研究の父・藤懸静也を紹介します。

藤懸は、明治14年2月25日に現在の茨城県古河市に、旧古河藩士・藤懸伝八郎の長男として生まれました。藤懸家は旧古河藩士の家系で、母方の祖父には蘭学者で古河藩家老の鷹見泉石がいます。小学校卒業後、上京し日本画家・川端玉章に師事し絵を学ぶなど、もともと絵画への関心は強くありました。藤懸は東京帝国大学文学部史学系に進むと浮世絵に出会い、西洋における浮世絵研究では不足していた文学的・演劇的背景を踏まえ浮世絵研究に着手し、浮世絵を歴史的系統に位置づけようとした。同大卒業後は、岡倉天心が創刊した『國華』編集部員、國學院大学教授、東京帝国大学教授などを歴任し戦後は

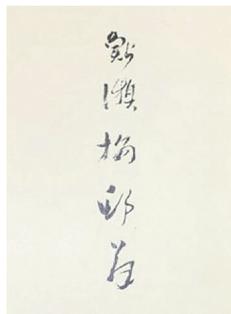
文化財審議会専門員となるなど浮世絵研究の大家として戦前・戦後ともに文化活動に従事しました。

那須地域との関係は、藤懸静也の妹・ふくが伊王野村長などを歴任した・鮎瀬善太郎 (Vol. 24で紹介) の長男・眞夫に嫁いでいたことから関係が始まります。大正年間、伊王野村では村の名士・鮎瀬淳一郎 (Vol. 7で紹介) の伝記を作ること計畫しており、そこで伝記編さん委嘱されたのが藤懸でした。藤懸は大正12年7月下旬に伊王野を訪れ、古記録の調査・古老や家族からの聞き取り調査の実施、小山田虎 (Vol. 17で紹介)・松本博から鮎瀬淳一郎に関する資料収集を行いました。約2年の歳月をかけ大正14年10月、藤懸静也・小山田虎著『鮎瀬梅村翁』が刊行し、鮎瀬淳一郎の伝記が完成しました。同書は現在『国立国会図書館デジタルコレクション』にて無料で閲覧することが出来ます。

藤懸は、戦後も「鮎瀬善太郎胸像」除幕式にも参列するなど、亡くなるまで伊王野を度々訪れました。現在、藤懸と伊王野の

関係を知る人は少ないですが、浮世絵をテレビや美術館で見るとき、少し思い出して頂けたらと思います。

▼問合せ 那須歴史探訪館
☎ 74・7007



声野の鮎瀬梅村翁

かつこう

4月、多くの小学校で入学式が行われます。那須町でも130人ほどの新1年生がお気に入りのランドセルを背負い、晴れやかな笑顔でこの日を迎えます。入学式は子どもの成長を実感できる貴重な機会です。また、それと同じくらい成長を感じることができるのが卒園式ではないでしょうか▼那須高原保育園で卒園を祝う会が行わ

れた時のことです。子どもたちは、歌やけん玉を披露し、保護者や先生たちがその様子を微笑みながら見守ります。自分の背丈の倍はあるだろう竹馬を、難なく乗りこなす姿に、少しの驚きと感心を抱きながら拍手を送っています。順調に進んでいた会ですが、その瞬間、時が止まりました。竹馬をギュッと握りしめ、歩き出そうと何度もチャレンジしますが、どうしても一歩が踏み出せません。しばしの沈黙の後「勇気をためるため」と

次の子に順番を譲ります。再チャレンジの時「がんばれ！」の大声援のなか、スッと一歩を踏み出した瞬間、拍手喝采が巻き起こり、見守るみんなの目には自然と涙があふれ、その瞬間に立ち合える喜びでいっぱいになりました▼子どもたちが成長し、変化する様子を見守り、その努力と成果を称えること、一つのステージを終え、新たなステージに進む姿を見守ることが出来ることは、なんて幸せなのかと感ずる瞬間となりました。

こんにちは

赤ちゃん



令和5年6月生まれ

はるま
大野 春真くん

はるまくんは…
お兄ちゃんと遊ぶことが大好き

令和6年8月生まれ

ゆい
大島 結くん

ゆいくんは…
お兄ちゃんが大好きな次男です！



「こんにちは赤ちゃん」コーナーの写真を随時募集しています。
詳しくは企画政策課広報広聴係 (☎72-6935) まで。

町の世帯と人口 (3月3日現在・住民基本台帳) ()の数字は前月比

・世帯数	10,785 世帯 (- 5)	出生	5人 (- 1)
・人口	23,544 人 (- 45)	死亡	48人 (- 20)
	男 11,735人 (- 24)	転入	63人 (+ 1)
	女 11,809人 (- 21)	転出	65人 (- 40)
		その他	0人増減